

読める字を手がかりに



前回の続きです。(p)は最初の5文字は前回の復習で、「
 猶又雨天等」です。次の **之** は「之」で、次の **節** が問題
 です。一見すると上半分の **着** から「着」にも見えない
 わけではありません。この字の特徴は下の **心** という部
 分で、この“感じ”は「節」という字です。「**之節**」
 という時を表す言い回しで頻出しますので、覚えておかな
 ければなりません。慣れていないと、「雨天等」の辺で“雨
 天などの時”？と想像して、**心** をみて、「節」でOK！
 という感じで読みます。

(q)の最初の**桐**という字では、**旁**の「同」という字が

読めると思います。すると、辺は「木」か「**木**」ですが、次の**油**が、はっきりと「油」
 なので、**桐**は「桐」で決まりです。次の「水」は、前回やった「等」です。次の3文字
 もほとんど崩されていません。「**丈夫二**」と読めます。次の**相**も「相」しかありません。**掛**
 は少し難しいですが、**偏**は「**木**」のようです。真ん中に「圭」のような「主」のような感じ
 のパーツが見えます。右には「ト」のような「戈」のようなパーツも見えます。これらを組
 み合わせて、「**木圭**」？「**木柱**」？で、想像すると、「掛」という字が思い
 当たります。

次の**可**は、慣れていない頃は、わかりにくい字です。「一の」？などと
 思ってしまいます。実は、これは「可」という字で、頻出する崩し方です。

もっとも、その下に **申** があり、これが「申」なので、**可**は「可」と確信
 が持てるのですが。最後は「候」で「可申候」(申すべく候)となります。

まとめると、(q)は「桐油等丈夫二相掛可申候」(「桐油などしっかり
 かけるようにしなさい」くらいの意味)となります。



最後に(r)の部分だけやっておきます。**勿**は「勿」。**論**
 は、偏の **言** が典型的な「言」です。右下に「冊」のようなパ
 ーツも見えるので、これは「論」です。(r)は「**勿論**」です。

